

市子連だより 第14号

平成21年12月

一緒にしよいや！子ども会

発行所：米子市子ども会連合会 米子市東町 161-2 米子市教育委員会生涯学習課内

沖縄・読谷村に行ってきました!

台風一過の沖縄・読谷村に、引率者3名、ジュニアリーダー2名、子ども会リーダー育成研修参加者18名で、訪問しました。4日間とも、お天気に恵まれ、けが、病気もなく、それぞれに有意義な時を過ごし、貴重な体験をすることができました。

米子市の芸能発表



かべぬりさんこ



よなこいサンバ



獅子舞 (ししまい)

読谷村の芸能発表



エイサー

◎沖縄県の方言には分からない言葉がたくさんありましたが、民泊家庭の家の人から教えてもらった「ヌチドゥ宝」の意味がすごく心に残りました。「ヌチドゥ宝」は「命こそ宝」という意味で、はげしい戦争があった沖縄では大切な言葉だそうです。それと「イチャリバチョーデー」という言葉も心に残りました。これは「出会えばみな兄弟」という意味だそうです。沖縄の人はみんなやさしいです。ぼくは、この言葉は沖縄の人だからこそ使える言葉だなと思いました。

◎沖縄での交流体験からぼくが今後の子ども会で生かしていきたいことは、もっと相手を知って、思いやりがあって優しく、困っている人がいたらすぐに助けてあげる、そんな高学年になって、みんなに喜んでもらいたいです。

子ども大会が成功

10月18日(日)に肌寒くやや風の強い中、今年も米子市子ども大会が開催されました。当日の

弓ヶ浜公園には、米子市の各地区の子ども会がいろいろなアイデアを出し合って考えたイベントが

広場いっぱいにも催され、たくさん子どもたちでにぎわいました。

『イライラ棒』のコーナーは、細長い風船をコースのまわりの針をよけながら風船を割らずにゴールさせるゲームです。たくさんの方が挑戦する中で、途中で風船が割れてびっくりしている子や、2~3回クリアして大喜びの子どももいました。



『ウォーターキング』というゲームでは額に付けた金魚すくいのポイをめがけて、お互いの持っている水鉄砲でうちあいました。風の強い日でしたが、子どもたちは一生懸命に的を狙って走りまわり、汗(かけられた水?)びしょりになって楽しんでいました。

昨年に引き続き、長蛇の列ができていたのは『ホラーハウス』です。このお化け屋敷では、怖くて泣きだす子どもも続出!!このコーナーは仕掛けも大変凝っていて、何回も繰り返し入る子どもたくさんいました。

【参加した人の声】
今日しかできない体験ができたので、来てよかったです。



他にも『人間ストラックアウト』『手さぐりもの当て』『ドッチビー』『Peopleウォッチング』『ストラックアウト』『ディスクスロー』などのイベントがありました。また、今年は『高齢者疑似体験』のコーナーもあり、ぼやけて見える眼鏡や足や手におもりをつけて歩くことによって、高齢者の方の身になって考えるコーナーも好評でした。

【子ども会役員の声】
寒かったけれど、そんな気持ちを吹き飛ばしてくれる子どもたちの笑顔が印象的でした。また、役員同士の絆も深まり、楽しく過ごすことができました。

